

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 北九州市 】

1 実践テーマ	【 II・III 】
2 実施対象者	○学 校 名 北九州市立修多羅小学校 ○対象児童 II：全学年児童 156人 III：第5学年児童 28人
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 ( 道 徳 ) ② 行事名 ( ) ③ その他 ( 総合的な学習の時間 ) ※第5学年:車椅子バスケットボール選手との交流 (2) 地域における活動 ① イベント名 ( ) ② その他 ( )
4 目 標 (ねらい)	○ 「おもてなしの心」について講師の話を聞き、自分とつながりのある人たちと仲良くしていくにはどうしたらよいかを考え、実践していこうとする心情を養う。 ○ 車椅子バスケットボールの選手との交流や、競技用車椅子の使用体験を通して、誰もが気持ちよく生きるために必要なことについて、自分の考えをもち、実践していこうとする心情を養う。
5 取組内容	【10月10日 全学年対象】 ○ おもてなしの達人による講演会 ・講師 筑波大学 客員教授 江上いずみ 様 「おもてなしの心」をテーマとした話を聞き、身の回りにいる人たちと自分とのつながりについて考え、仲良くしていくための方法を考え、実践していこうとする心情を養う。



	<p>【11月15、16日 第5学年児童対象】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 車椅子バスケットボール学校交流会 <ul style="list-style-type: none"> <li>・講師 日本代表チーム（3名）</li> </ul> <p>交流会の準備をすることを通して、障害者の生活の苦勞を実感したり、工夫を知ったりして、障害者と共生する社会について考える。そして、車椅子バスケットボールの競技者から話を聞いて、人間の強さ、生きがい、仲間、豊かな生活等について考える。また、体験活動として、競技用車椅子を使用したり、車椅子バスケットボールのゲームをしたりする。</p> </li> <li>○ チャンピオンズカップの観戦 <p>交流した日本代表チームの試合を応援することを中心に、車椅子バスケットボールの国際試合を観戦する。</p> </li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
<p>6 主な成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ おもてなしの達人による講演会 <p>本校では、「あいさつ運動」に取り組んでおり、その積極的な推進に役立ち、進んで挨拶をする子どもが増えてきた。また、人への関わり方を考える良い機会となり、お互いに優しく接することで、よりよい人間関係が広がってきた。</p> </li> <li>○ 車椅子バスケットボール学校交流会及びチャンピオンズカップの観戦 <p>時期的に中学校区交流バスケットボール大会への取組をしていたことと併せて、バスケットボールへの関心・意欲をより高めることに役立った。また、車椅子体験をすることで、身体が不自由な人が生活しやすい社会について考える機会となり、バリアフリーについての興味・関心がより高まった。</p> </li> </ul>
<p>7実践において工夫した点（事業の特色）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ おもてなしの達人による講演会での講師（筑波大学 客員教授 江上いずみ 様）を招聘するに当たって、近隣の2つの小学校と連携して計画を立てた。それにより、経費を抑えることができた。</li> <li>○ 学校規模を生かして、1～3年、4～6年に分けた2部構成にしたことで、全学年に実施することができた。</li> </ul>
<p>8主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教育課程への位置付けについて、総合的な学習の時間を中心に、教科と関連付けて、本校の特色ある教育として確立する必要がある。</li> </ul>
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教育課程の位置付けとともに、市教委の施策を積極的に活用したい。</li> </ul>